SUPERBIKE EXPRESS 2017 FINAL

MFJ GP SUZUKA
2017 49th MFJ GRAND PRIX
SUPERBIKE RACE in SUZUKA

SUPERBIKE EXPRESS 2017 VOL.9 All Japan Road Racing Championship SUZUKA

SUPERBIKE EXPRESS-- EXtra, EXpert and EXtreme

中須賀克行がダブルポールポジションを獲得! 津田拓也、高橋巧、渡辺一馬の3人による僅差のタイトル争いの行方はいかに!?

2017年シーズンも三重県・鈴鹿サーキットで、そのフィナーレを迎える全日本ロードレース選手権。J-GP2クラスの水野涼のみ最終戦を待たずにチャンピオンを決めたが、その他の3クラスは、今回のMFJグランプリまでタイトル争いがもつれ込んでいる。いずれも接戦となっており、各クラスとも、そのレースの行方に注目が集まるところだ。

JSB1000クラスは、今年も2レース制となっており、レース1が8周、レース2が20周と、それぞれ違う戦略が必要となってくる。タイトル争いは、ヨシムラの津田拓也が155ポイントで暫定ランキングトップにつけ、ハルク・プロの高橋巧が149ポイント、チームグリーンの渡辺一馬が144ポイントで追っている状況だ。

今年も最終戦のレースウイークは、木曜日の特別スポーツ走行から始まった。ここでトップタイムをマークしたのがタイトル争いを繰り広げている高橋巧だった。1本目の走行で2分06秒446をマークし「2分05秒台に、すぐに入れられそうだ」と語っていたが、金曜日は1本目に2分06秒368とタイムを縮めたものの、2本目に2輪専用シケインで転倒を喫した。2日連続でトップタイムをマークしたが、やや足踏みした感じだった。

公式予選が行われた土曜日もドライコンディションとなったが、風が強く、気温も時間が経つにつれ下がって行く状況だった。今回もノックアウト方式の予選は、まずは、30分間でQ1が行われた。開始早々に日浦大治朗がダンロップコーナーで転倒し、ライダーとマシンがコース上に残ってしまったため赤旗中断。日浦は、この時点で2分07秒644と好タイムをマークしていたが、結果は11番手となっている。その後、中須賀克行、野左根航汰のヤマハファクトリーコンビがアタックし、2分05秒台に突入。Q2でも中須賀は、ただ一人2分05秒台に入れ両レースともにポールポジションを獲得。5年連続7度のチャンピオンの底力を見せつけた。

「予選は風が強かったので、野左根選手に前に行ってもらってスリップストリームを有効に使おうと思ったのですが、思ったよりもタイムが出なかったので、ボクが前に行きました。結果的に両レースとも予選では、ヤマハファクトリーが1-2できたので、よかったし、実際にレースでも同じ結果を出せるようにしたいですね。もちろんボクが2レースとも勝つつもりですし、目指すのはシーズン最多勝記録です!!」と中須賀。野左根もMotoGP™日本グランプリで負傷した指も、ほとんどライディングに影響はないと語り、初日から速さを見せているだけに、ヤマハファクトリーの2人がレースの主導権を握ることになりそうだ。

一方、タイトルを争う3人の中では、渡辺が好調だ。予選では、Q1、Q2共に3番手につけフロントロウを確保した。

「この最終戦には、チームがニューパーツを用意してくれて、レースウイーク初日から予定通りにスケジュールをこなして、マシンセットも順調に進めることができています。ライダー的にも、今シーズンで一番いい状態だと思いますし、あとはレースを迎えるだけです。問題と言えば、まわりのライダーが速いということですね」と上々の仕上がりだ。

木、金とトップタイムを記録していた高橋巧は、「Q1は、いま一つの状態だったので、Q2に向けてアジャストしたのですが、気温が下がった影響なのか、2分05秒台には入れられませんでした。ただ、その対策も考えてありますし、レースには、もっといい状態で臨めると思うので優勝を目標に走るだけです」とコメント。レース1は、4番手グリッド、レース2は、6番手グリッドと2列目からのスタートとなった。そして津田は、Q1でようやく2分06秒台に入れるが9番手、Q2では8番手と3人の中では一番苦戦している。

「タイトルを争っている3人の中では、一番劣勢となっていますし、全力で追いかける気持ちで臨みます。レース1は、2分06秒台の戦いになると思いますので、意地でもついていって最後に前に出られるようにしたいですね。ここまで来たらやるしかないです」と津田。

好調なヤマハファクトリー勢に、タイトルを争う3人、そして好タイムをマークしているモリワキの清成龍一、高橋裕紀、スタートダッシュを得意としている加賀山就臣の存在も見逃せない。藤田拓哉、山口辰也もペース次第では、トップ争いに絡んでくる可能性もあるだろう。まずは8周の短期決戦となるレース1がタイトルの行方を左右することになりそうだ。お見逃しなく!

JSB 1000 All Japan Road Race Championship

レース1ポールポジション:2分05秒548
レース2ポールポジション:2分05秒354
#1　中須賀克行
YAMAHA FACTORY RACING TEAM

『今シーズンは17インチになり苦戦していたのですが、前戦の岡山でニューパーツを投入し、それがいい感触でした。しかし、そのパーツが、鈴鹿では、あまり機能してくれませんでした。鈴鹿8耐では、16.5インチでいいフィーリングがありましたが、その感触と決別して自分の走りのリズムをつかみながらタイムを縮めて来ました。レースは、久しぶりにノープレッシャーで臨めます。確かにタイトルがかかっていれば緊張しますし、記録が途絶えた寂しさは、ありますが、純粋に勝ちにこだわって臨みたいですね。野左根選手もいいタイムで走っていますし、また1-2フィニッシュできるように全力を尽くすだけですね。8周のレース1は、駆け引きもなくタイヤの温存もなにも考えずガチンコ勝負になると思いますし、タイトル争いをしている人たちは、難しい状況でしょう。その中で、ヤマハ色にレースを染めることができればいいなと思っています。もちろん両レースとも勝って、最多勝利を狙います』

公式予選正式結果 JSB1000[Race1]

●予選:天候／晴　路面／ドライ　出走29台
●決勝[Race1]スタート進行／10:50(8周)

Pos	No	Rider	Team	Time
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	2'05.548
2	5	野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5	2'06.068
3	23	渡辺 一馬	Kawasaki Team GREEN	2'06.081
4	634	高橋 巧	MuSASHi RT HARC-PRO. Honda	2'06.307
5	88	清成 龍一	MORIWAKI MOTUL RACING	2'06.371
6	9	藤田 拓哉	YAMALUBE RACING TEAM	2'06.823
7	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	2'06.823
8	12	津田 拓也	ヨシムラスズキMOTUL	2'07.034
9	104	山口 辰也	TOHO Racing	2'07.279
10	72	高橋 裕紀	MORIWAKI MOTUL RACING	2'08.130
以上Q2にて決定:				
11	25	日浦 大治朗	Honda 鈴鹿レーシングチーム	2'07.644
12	50	濱原 颯道	ヨシムラスズキMOTUL	2'08.127
13	090	秋吉 耕佑	au & テルル・Kohara RT	2'08.425
14	87	柳川 明	Kawasaki Team GREEN	2'08.561
15	85	中冨 伸一	HiTMAN RC甲子園ヤマハ	2'08.640
16	94	浦本 修充	Team KAGAYAMA	2'09.186
17	32	今野 由寛	MotoMap SUPPLY FA	2'09.363
18	79	伊藤 真一	Team SuP Dream Honda	2'09.382
19	47	上和田 拓海	Webike チームノリックヤマハ	2'09.763
20	46	松﨑 克哉	Kawasaki Team GREEN	2'09.780
21	450	相馬 利胤	TT45	2'10.125
22	73	安田 毅史	TEAM AGRAS with NOJIMA	2'10.413
23	62	津田 一磨	Titanium Power & BabyFace	2'10.888
24	080	渥美 心	UQ & テルル・Kohara RT	2'10.949
25	18	近藤 湧也	JOYNET GBSレーシングYAMAHA	2'11.045
26	13	中津原 尚宏	オートテクニックスポーツPGR	2'11.488
27	29	小島 一浩	Honda 熊本レーシング	2'11.717
28	34	岡村 光矩	KRP三陽工業&RS-ITOH	2'12.208
29	16	児玉 勇太	TONE RT SYNCEDGE 4413	2'12.827
30	57	森本 誠一朗	Team38 PS-K	2'12.935
31	43	須貝 義行	チームスガイレーシングジャパン	2'13.570
32	41	樋口 耕太	H.L.O RACING	2'16.156

★JSB1000[Race1]のスターティンググリッドは、ノックアウト公式予選Q2まで終了した順となります。

JP 250 Presented by DUNLOP

佐野優人(INT)、成田彬人(NAT)が優勝 インタークラスチャンピオンは藤井謙汰!

2017 MFJカップJP250選手権 第6戦の決勝レースは、2周目のアクシデントで赤旗中断、6周に減算されて仕切り直しとなった。インターのランキングを争う佐野優人、成田彬人や上原大輝らの集団によるトップ争いは、最終周まで続いたが、最後は佐野が抜け出してトップチェッカー、INTクラスで優勝、NATクラスは成田が優勝した。クラス2位に入った藤井謙汰がインタークラスチャンピオンとなった。

決勝正式結果(6周／上位10位)

●11月4日(土)予選・決勝　天候／晴　路面／ドライ　出走44台

Pos	No	Cls.	Rider	Team	RaceTime
1	97	I 1	佐野 優人	TEAM BATTLE	15'03.946
2	92	N 1	成田 彬人	Team HIRO	15'04.219
3	40	N 2	西村 硝	TEAM TEC.2	15'04.317
4	73	N 3	上原 大輝	CLUB HARC-PRO.	15'04.676
5	90	I 2	藤井 謙汰	テルル・Moto UPレーシング	15'04.752
6	20	I 3	笠井 悠太	TEAM TEC.2	15'04.849
7	14	I 4	中村 敬司	SpeedHeart TTS Racing Team+NCC	15'08.553
8	17	I 5	井手 翔太	HITMAN RC甲子園 ヤマハ	15'16.466
9	54	I 6	亀井 駿	T.Pro with テルル	15'17.305
10	23	N 4	砂泊 孝太	Spike&Kurodaya	15'19.868

J-GP2 All Japan Road Race Championship

QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

榎戸育寛が今季3度目のポールポジションを獲得!
「決勝レースでは強さを見せたい!」

榎戸育寛

J-GP2クラスの公式予選も走行開始早々にアクシデントが発生し赤旗中断。再開されたセッションでは、金曜日のART走行から好調の榎戸育寛が2分10秒537でトップに浮上。関口太郎も10秒906でこれに続く。石塚健、岩戸亮介、水野涼らも11秒台をマークしていた。

榎戸はアタックを続けて9秒987までタイムアップし、トップを固める中、石塚、水野、岩崎哲朗、作本輝介らもタイムアップするが、いずれも11秒台でセッションは終了。榎戸がただ一人の9秒台をマークして、今季3度目のポールポジションを獲得した。

2番手には序盤のタイムで関口がつけ、すでにタイトルを決めている水野が11秒061で3番手でフロントロウに並ぶ結果となった。2列目には11秒095で石塚、11秒823の岩崎、11秒828の僅差で作本が6番手、3列目には11秒860の岩戸、11秒900の生形秀之、12秒153の柴田陸樹と続いた。

ポールポジション:2分9秒987
#32　榎戸 育寛
MOTO BUM HONDA

『ポールポジションはとれましたが、狙っていた一発のタイム=2分8秒台にはまったく届いていないので、その点では不満ですね。出そうだったんですけどね。決勝に向けてはとても良い感じです。いけると思います。日本グランプリにワイルドカード参戦して、大きく変わりました。フォームや走り方、セッティングも全然違うので、その効果もあるのかな、と思っています。決勝では、もてぎ(第4戦ポールスタートからトップを走りながら転倒して後退)のようにならないよう、落ち着いて走りながらも強さを見せたいと思います』

ST600 ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

ST600 Official Tire

コンディション急変の中、前田恵助がP.P.獲得!!
「チャンピオン最優先! 気を引き締めて臨みます」

前田恵助

ST600の公式予選は、セッションの開始早々、各車とも1～2周目でタイムを出す前に西コースから雨の情報が入り、レッドクロスが提示。スプーンで転倒車両も発生したことで赤旗中断。その直後にアタックに入っていた前田恵助がコントロールラインを通過するがタイムは計測されず、セッションは一時中断された。この時点では南本宗一郎の2分15秒206がトップタイム。

再開されたセッションでは、前田が真っ先にコースイン、2分13秒710をマークしてトップに浮上。次いで岡本裕生が14秒594で続く。残り時間も少なくなる中、その後も上位の各ライダーがアタックを繰り広げる、激しいものとなった。序盤にタイムの出なかった國峰啄磨もこの段階で14秒356をマークして一気に2番手に浮上。最後に亀井雄大が14秒298を叩き出して2番手に食い込む。しかし、結局前田がポールポジション、亀井、國峰がフロントロウ、4番手に清末尚樹が14秒361、14秒471まで上げた岡本、14秒474で名越哲平と続いた。

ポールポジション：2分13秒710
#5　前田恵助
伊藤RACING・GMDスズカ

『雨が降ってタイムが抹消されてこのまま雨だったら…と気持ちが高ぶってしまって、そのままの気持ちで再開後もアタックして、実はたくさんミスをしていまいました。それでも取りあえずのタイムは出せたので、ピットに戻ったら大崎（誠之）さんに「焦り過ぎ！」と指摘されたので、一度ヘルメットを脱いでピットで気持ちを落ち着かせました。セッションの終盤もタイムアップを狙っていたんですが、セットを合わせることができなかったり、クリアラップが取れなかったりしたので、結果的には決勝レースに向けた感じになりました。決勝は昨年とは違って落ち着いて、かつ気持ちを引き締めて臨みたいと思います』

J-GP3 ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

中島元気、全日本初ポールポジションをホームコースで獲得!!
「決勝レースはぶっちぎるつもりで走りたい!」

中島元気

好天に恵まれた公式予選日、全日本で最初に始まったのがJ-GP3の予選セッション。3周目に2分19秒703をマークして栗原佳祐がトップに立つ。その後にホームコースで優勝を狙う中島元気が19秒123でトップを奪った。その後ろにはタイトル争いの直接ライバルである伊達悠太と小室旭が19秒台で続く。

セッションの終盤にかけて各ライダーも最後のアタックを試みる。その中で山中琉聖が19秒679、さらには小室も19秒542まで上げて中島に迫る。中島もタイヤを交換して最後のアタックに入り、19秒290とベストは更新出来なかったものの、トップをキープ。全日本選手権初ポールポジションを獲得した。

最終順位は、中島、小室、山中までがフロントロウ、栗原、最後に19秒715に入れた宇井陽一、セカンドロウ最後の6番手に逆転でタイトルを狙う伊達がつけ、ここまでが19秒台となった。

ポールポジション：2分19秒123
#34　中島 元気
TEAM SRS-MOTO

『ポールポジションを獲れたことは凄く嬉しいですが、タイム的にはまったく出せていないので、その反面悔しい気持ちはあるのですが、鈴鹿サーキットは、チームとボク自身のホームコースでもあり、ホッとしています。自分の目標のタイムは18秒前半で、チームのオーダーも18秒台には絶対入れろ、というものでしたから、どちらも達成できていません。セッションの終盤は少し方向性を変えたり、タイヤを変えたり、ピットインを繰り返してアタックしたのですが、更新できませんでした。決勝レースは前回のように混戦になると思いますが、後ろのことは気にせずに全力でぶっちぎりたいと思います』

Text : Toshihiro Sato & SUPERBIKE.JP / Photo : H.Wakita & Y.Harada / Issued by SUPERBIKE.JP

MFJ Superbike the49th MFJ Grand Prix SUPERBIKE RACE in SUZUKA 04 - 05 Nov. 2017 公式予選結果

JSB 1000

●予選:天候／晴 路面／ドライ 出走32台
●決勝[Race2]スタート進行／14:50(20周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	2'05.354
2	5	野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5	YZF-R1	2'05.462
3	23	渡辺 一馬	Kawasaki Team GREEN	ZX-10RR	2'06.205
4	9	藤田 拓哉	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	2'06.267
5	104	山口 辰也	TOHO Racing	CBR1000RR SP2	2'06.695
6	634	高橋 巧	MuSASHi RT HARC-PRO. Honda	CBR1000RR SP2	2'06.716
7	72	高橋 裕紀	MORIWAKI MOTUL RACING	CBR1000RR	2'06.941
8	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	2'06.966
9	12	津田 拓也	ヨシムラスズキMOTUL	GSX-R1000	2'06.986
10	88	清成 龍一	MORIWAKI MOTUL RACING	CBR1000RR	2'07.223
以上Q2進出:					
11	25	日浦 大治朗	Honda 鈴鹿レーシングチーム	CBR1000RR SP2	2'07.644
12	50	濱原 颯道	ヨシムラスズキMOTUL	GSX-R1000	2'08.127
13	090	秋吉 耕佑	au & テルル・Kohara RT	CBR1000RR	2'08.425
14	87	柳川 明	Kawasaki Team GREEN	ZX-10RR	2'08.561
15	85	中冨 伸一	HiTMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	2'08.640
16	94	浦本 修充	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	2'09.186
17	32	今野 由寛	MotoMap SUPPLY FA	GSX-R1000	2'09.363
18	79	伊藤 真一	Team SuP Dream Honda	CBR1000RR SP2	2'09.382
19	47	上和田 拓海	Webike チームノリックヤマハ	YZF-R1	2'09.763
20	46	松﨑 克哉	Kawasaki Team GREEN	ZX-10RR	2'09.780
21	450	相馬 利胤	TT45	YZF-R1	2'10.125
22	73	安田 毅史	TEAM AGRAS with NOJIMA	YZF-R1	2'10.413
23	62	津田 一磨	Titanium Power & BabyFace	YZF-R1	2'10.888
24	080	渥美 心	UQ & テルル・Kohara RT	CBR1000RR	2'10.949
25	18	近藤 湧也	JOYNET GBSレーシングYAMAHA	YZF-R1	2'11.045
26	13	中津原 尚宏	オートテクニックスポーツPGR	CBR1000RR	2'11.488
27	29	小島 一浩	Honda 熊本レーシング	CBR1000RR	2'11.717
28	34	岡村 光矩	KRP三陽工業&RS-ITOH	ZX-10RR	2'12.208
29	16	児玉 勇太	TONE RT SYNCEDGE 4413	BMW S1000RR	2'12.827
30	57	森本 誠一朗	Team38 PS-K	ZX-10R	2'12.935
31	43	須貝 義行	チームスガイレーシングジャパン	aprilia RSV4 RF	2'13.570
32	41	樋口 耕太	H.L.O RACING	GSX-R1000	2'16.156

以上予選通過車両:
予選通過基準タイム（ 110 % ） 2'18.241

★JSB1000[Race2]のスターティンググリッドは、ノックアウト公式予選Q1にて記録されたタイム順です。

J-GP2

●予選:天候／晴 路面／ドライ 出走22台
●決勝スタート進行／13:45(15周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	32	榎戸 育寛	MOTO BUM HONDA	KALEX	2'09.987
2	44	関口 太郎	SOX Team TARO PLUSONE	HP6	2'10.906
3	634	水野 涼	MuSASHi RT HARC-PRO.	HP6q	2'11.061
4	5	石塚 健	WILL-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	2'11.095
5	70	岩﨑 哲朗	OGURAclutch with パワービルダー	ZX-6R	2'11.823
6	8	作本 輝介	Team 高武 RSC	MD600	2'11.828
7	31	岩戸 亮介	Team 高武 RSC	MD600	2'11.860
8	4	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング	GSX-R MFD6	2'11.900
9	39	柴田 陸樹	RS-ITOH&AUTOBOY	ZX-6R	2'12.153
10	13	三原 壮紫	Team KAGAYAMA	GSX-proto71	2'12.188
11	93	稲垣 誠	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-AS6	2'12.195
12	33	KUBO KEMINTH	Thailand ヤマハチームノリック	YN6	2'12.773
13	10	大木 崇行	T.Pro HARC	HP6	2'13.007
14	090	中村 修一郎	au & テルル・Kohara RT	KALEX	2'13.556
15	24	中本 翔	リリカAMENA with OutRun	YZF-R6	2'13.586
16	36	徳留 真紀	マルマエPLUSONE	SPEED UP	2'13.657
17	392	村瀬 健琉	ミクニ テリー&カリー	GSXR600	2'13.978
18	17	井筒 仁康	WILL-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	2'15.005
19	16	中本 郡	TONE RT SYNCEDGE 4413 BIZEN	HP6	2'15.164
20	27	山内 宏之	立秋モータース&RC甲子園	YZF-R6	2'18.931
21	21	赤間 清	Mistresa RT HARC-PRO.	HP6q	2'19.215
22	28	朝比奈 正	アサヒナレーシング	ASAHINA Z600	2'19.962

以上予選通過車両:
予選通過基準タイム（ 110 % ） 2'22.985

J-GP3

●予選:天候／晴 路面／ドライ 出走25台
●決勝スタート進行／9:50(12周)

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	34	Y	中島 元気	TEAM SRS-MOTO	NSF250	2'19.123
2	17		小室 旭	Team P.MU 7C	NSF250R	2'19.542
3	090		山中 琉聖	テルル・MotoUPレーシング	NSF250R	2'19.679
4	2		栗原 佳祐	MORIWAKI CLUB	MD250	2'19.703
5	41		宇井 陽一	41Planning	TR-004	2'19.715
6	64	Y	伊達 悠太	BATTLE FACTORY	NSF250R	2'19.734
7	12		船田 俊希	TEAM PLUSONE	NSF250R	2'20.194
8	3		安村 武志	犬の乳酸菌.jp/プリミティブR.T	PRCS3C	2'20.285
9	14		高杉 奈緒子	41Planning	NSF250	2'20.306
10	7		古市 右京	KTM RACING	KTM RC250R	2'20.486
11	33		佐野 勝人	犬の乳酸菌.jp/プリミティブR.T	PRCS PRCS3b	2'20.532
12	11		太田 虎之進	WJ-FACTORY	NSF250	2'20.923
13	13	Y	長谷川 聖	CLUB Y's	NSF250R	2'21.512
14	18		大澤 恒貴	team hiro'ck	NSF250R	2'21.842
15	10		山本 恭裕	チームライフ・ドリーム北九州	NSF250R	2'21.855
16	36	Y	福嶋 佑斗	TEAM PLUSONE	NSF250R	2'22.044
17	20		三好 菜摘	オーテック・スズカ+RGニワ	NSF250R	2'22.120
18	23		川瀬 啓一郎	club NEXT & KOHSAKA	TSR3	2'22.859
19	6		岡崎 静夏	UQ & テルル・Kohara RT	TSR TSR3	2'22.907
20	16		野澤 秀典	ノザワレーシングファミリー	NSF250R	2'23.109
21	24		金子 寛	ifレーシング AutoMac 翔天恭	NSF250R	2'23.855
22	31		荘 安育	SHARK FACTORY aRacer BATTLE	NSF250R	2'24.545
23	21		畑中 要	FTR・タイヤナビ・㈱遠藤住宅	NSF250R	2'25.058
24	72		岸田 慶一	FLEX Racing TEAM & MH OHARA	NSF250R	2'25.211
25	22		白石 玲菜	Dreamline Team REINA	NSF250R	2'25.216

以上予選通過車両:
Y=ユースカップ登録ライダーを示す。
予選通過基準タイム（ 110 % ） 2'33.035

Supported by
BRIDGESTONE

ST 600

●予選:天候／晴 路面／ドライ 出走31台
●決勝スタート進行／11:45(12周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	5	前田 恵助	伊藤RACING・GMDスズカ	YZF-R6	2'13.710
2	17	亀井 雄大	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR600RR	2'14.298
3	50	國峰 啄磨	T.Pro Innovation	CBR600RR	2'14.356
4	70	清末 尚樹	RS-ITOH	ZX-6R	2'14.361
5	52	岡本 裕生	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	2'14.471
6	3	名越 哲平	Mistresa RT HARC-PRO.	CBR600RR	2'14.474
7	40	南本 宗一郎	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-R6	2'14.536
8	57	奥田 教介	team MF & KAWASAKI	ZX-6R	2'15.057
9	13	山元 聖	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	2'15.458
10	48	行村 和樹	TOHO Racing Club	CBR600RR	2'15.516
11	18	田所 隼	TEAM PLUSONE	CBR600RR	2'15.842
12	39	古山 颯太	伊藤RACING・GMDスズカ	YZF-R6	2'15.938
13	46	星野 知也	TEAM PLUSONE	CBR600RR	2'16.025
14	24	田尻 克行	グリーンクラブ能塚	ZX-6R	2'16.100
15	41	仲村 優佑	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-R6	2'16.104
16	15	和田 留佳	RS-ITOH&サンタバイク	ZX-6R	2'16.567
17	38	杉山 優輝	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	2'16.738
18	28	山内 芳則	YSSマーキュリー&スピードハートTTS	ZX-6R	2'16.842
19	20	名越 公助	GBS YAMAHA マツエセブン忠男	YZF-R6	2'16.948
20	27	大野 英樹	B〜DASH106 Snail Racing	ZX-6R	2'17.186
21	16	中村 豊	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	2'17.274
22	54	田尻 悠人	GOSHI Racing	CBR600RR	2'17.453
23	77	西嶋 修	チーム阪神ライディングスクールwith才全会	ZX-6R	2'17.648
24	43	森中 忍	B-dash106+Little Wing	CBR600RR	2'17.656
25	90	中村 龍之介	au&テルル・Kohara RT	CBR600RR	2'17.670
26	25	松川 泰宏	MOTO BUM+SAI	CBR600RR	2'18.061
27	58	村瀬 豊	ifレーシング&モトテックRS	CBR600RR	2'18.179
28	86	佐藤 道夫	EGUKEN Garage	YZF-R6	2'19.201
29	26	櫻井 賢一	MOTO BUM	CBR600RR	2'19.674
30	64	矢田 栄一朗	GBSレーシングYAMAHA	YZF-R6	2'23.531
31	47	宮脇 寿郎	T-PRO inc,&ファイヤーワークス北関東	ZX-6R	2'23.569

以上予選通過車両:
予選通過基準タイム（ 110 % ） 2'27.081

●2017年全日本ロードレース選手権各クラス最新ランキング(第8戦岡山国際大会終了時の暫定)
【JSB1000クラス】 1位／津田拓也(155) 2位／高橋巧(149) 3位／渡辺一馬(144) 4位／藤田拓哉(121) 5位／野左根航汰(118)
【J-GP2クラス】 チャンピオン／水野涼(145) 2位／関口太郎(113) 3位／生形秀之(109) 4位／榎戸育寛(96) 5位／岩戸亮介(95)
【ST600クラス】 1位／前田恵助(108) 2位／國峰啄磨(101) 3位／岡本裕生(92) 4位／星野知也(88) 5位／奥田教介(68)
【J-GP3クラス】 1位／小室旭(109) 2位／伊達悠太(106) 3位／古市右京(90) 4位／中島元気(83) 5位／安村武志(67)
※全日本ロードレース選手権ポイントシステム:優勝(25) 2位(22) 3位(20) 4位(18) 5位(16) 6位(15)…以下20位まで1点刻み…20位(1)
※MFJ-GPでは、各順位にボーナスポイント3点がそれぞれ加算、JSB1000クラスは各レース毎にポイントが加算されます。

INFORMATION

RIDE & DRIVE 全てのモータースポーツファンに向けてレースをお届けします!

全日本ロードレース全戦が無料BS放送のBS12(番組名「RIDE&DRIVE」で放送されます! 放送時間はレース6日後の土曜日、27:00〜27:54に変わりました。
★詳しい放映スケジュール等はファンサイトで!

■全日本ロードレース選手権第8戦
スーパーバイクレース in 岡山／放映スケジュール
11月11日(土) 27:00〜27:54

BS12 TwellV

インターネットライブ中継&動画配信も充実!!

MFJ Live CHANNEL

サーキットの場内監視(ポスト)映像に外部カメラ映像をプラスし、「MFJライブチャンネル」にて配信。
中継配信がより充実しました。※通信環境によりディレイ配信となる場合もあります

YouTube YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

詳しくはファンサイトで → http://superbike.jp/

MFJプロモーション委員会事務局：東京都中央区築地3丁目11番6号 築地スクエアビル10階 TEL:03-5565-0900 2017年11月5日(日)発行